

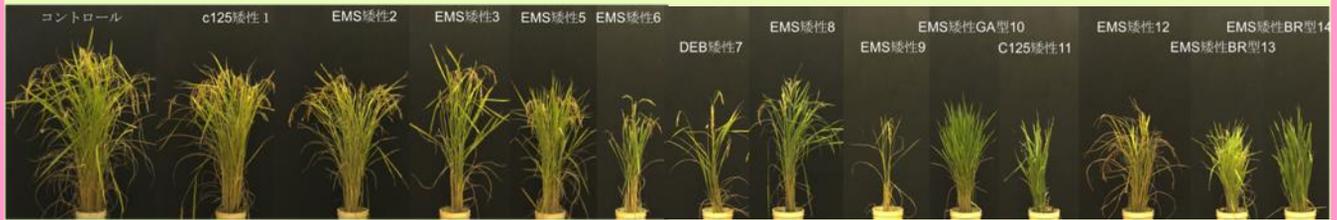
研究概要

日本酒生産では、最高級ブランド酒米品種である「山田錦」が重宝されている。しかしながら、「山田錦」は草丈が高いため倒れやすく、粃が穂からばらばらと落ちる性質(脱粒性)もあり、生産が難しい。また、収穫期が遅いため、秋に寒くなりやすい福井では気候が合わず十分に収穫できない。そこで本課題では、山田錦にイオンビームを照射し、草丈が低く(矮性)、脱粒しにくく(難脱粒性)、収穫期が早い(早生)福井県での栽培に適した「新山田錦」の育成を目指す。

研究成果

約2,800系統の山田錦変異体集団の中から、有望な変異体を選抜した。

①矮性変異体の選抜



山田錦

矮性変異体

山田錦よりも背が低い矮性個体を多数選抜した。

②早生変異体の選抜

8月22日撮影



山田錦 早生変異体
収穫期が約40日早い

9月6日撮影



山田錦

早生変異体
収穫期が約15日早い

山田錦よりも収穫期が早くなった変異体を多数選抜した。

早生変異体は穂が茶色く色づいているが、山田錦の穂はまだ青い事がわかる。

③難脱粒性変異体の選抜



山田錦

難脱粒性変異体

山田錦の脱粒性を失った変異体を選抜した。

山田錦は穂を強く握るとばらばらと粃が落ちるが、難脱粒性変異体は粃が落ちない。

まとめと今後の課題

28年度の研究で、矮性、早生、難脱粒性の変異体を多数選抜する事に成功した。今後は、これらの選抜した変異体の形質が維持されていること、山田錦の酒米適性を維持していることを確認し、品種育成に繋がる有望な系統を選抜する必要がある。